



園だより

第5号

令和元年9月2日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

「子どもの「したい」「やりたい」を支える保育」

本日より、第二学期が始まります。夏季保育や夕涼み会で久しぶりに会った子どもたちは、日に焼け、ぐっと背も伸び、たくましく大きくなっていました。楽しい体験をたくさん積まれたことでしょう。「夏の思い出」を拝見したり、子どもたちから話を聞いたりすることが楽しみです。

子どもたちにとって豊かな体験を積むことが出来る夏季休業日は、教員にとっても、研究・研修を通して資質や教育力を高めるためにも貴重な時間です。今年は、様々な研修会に参加するだけでなく、8月19・20日に、第10回幼児教育実践学会（静岡市で開催）で本園の保育実践をポスター発表しました。研究主題は『子どもの「したい」「やりたい」を支える保育 ～ライブショーごっこ遊びを通して～』です。

昨年度の園内研究では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に指導方法を見直したり、遊戯室や巧技台を自由に使用できるように環境構成を工夫したりしてきました。その結果、「ライブショーごっこ」が始まりました。学期末子ども会の劇「オズの魔法使い」で、挿入歌を作ったり演じたりした年長児の子どもたちが、もっと歌ったり踊ったり「したい」「やりたい」と自分たちで始めた遊びです。

友達と一緒に楽しく歌い、踊れるようになると、「みんなに見て欲しい」という気持ちが芽生えてきました。誕生会の出し物で「ライブショーごっこ」を見た年少児は、自分も「したい」「やりたい」と牛乳ケースでステージを作ったり、ままごとのスカートを身につけたりして踊り始めました。年中児が、展覧会の作品としてごっこ遊びの衣装を作ると、年長児はそのアイデアを取り入れライブショーの衣装を素敵なものに「したい」「やりたい」と工夫していきました。担任たちは、子どもたちの「したい」「やりたい」という気持ちを支え、実現できるように発達に応じた指導を行ってきました。すると、楽しさが全学年に伝播し影響し合いながら、3月末までの長期間にわたり、遊びを工夫し発展させて楽しむ姿が見られたのです。そこには、「思考力の芽生え」「自立心」「協同性」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活とのかかわり」「豊かな感性と表現」など、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に向かう育ちをしっかりと見ることができました。

「したい」「やりたい」という気持ちを支える保育を実現するために、子どもたちの興味や関心、発達などを理解して環境を構成していくこと、「行事と日常の保育」「一斉活動と好きな遊び」が連続したものとなることなどが重要であることを学ぶことができました。前述の学会で発表したポスターを14日（土）まで玄関に掲示します。是非ご覧ください。

10月の運動会には、ライブショーごっこ遊びを機に子どもたちが大好きになった『パプリカ』の曲を取り入れたいと思います。

幼児期に意欲や主体的な気持ちをしっかりと育んだ子どもは、小学校でもしっかりと成長できます。この夏の教員の学びを保育の中に生かし、より「したい」「やりたい」という意欲や主体的な気持ちをもって遊ぶ子どもたちを育てていきたいと思ひます。

二学期もどうぞよろしくお願いいたします。



夕涼み会では、小学生のボランティアが大活躍してくれました。小学生の姿に、あこがれを抱いた子どもも多かったことでしょう。ありがとうございました。



夢中になって遊ぶ子どもたちには、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」がたくさん見られます。



一つの事例をみんなで分析し、まとめたことで、教員の幼児理解や遊びへの理解が広がり、主体的に遊ぶ子どもに向けての指導が広がりました。



学会で、教員は、自分の言葉で研究について説明したり、協議したり、他園の研究を見聞したりする中で多くのことを学びました。